

1. 危険性の従事者への周知

1.1 周知の方法

化学物質の危険性の従事者への周知は、教育訓練、容器のラベル貼り付け又は表示、MSDSの配布閲覧、を通じて実施する。

1.2 教育訓練

1.2.1 教育訓練対象者

主管部門長は、ESH管理室長と協力し、化学物質の取扱い従事者を対象とした環境安全衛生教育訓練を実施する。対象者は次の通りとする。対象に追加、変更、廃止が発生した場合はESH管理室長が主管部門長と協力して是正する。

(1) 未経験者の就労

新規入社、配置転換等で、従来経験の無い化学物質を使用する業務に就労する者。

(2) 化学物質の新規導入

化学物質を新規に導入する場合、当該化学物質の取扱いに従事する者。

(3) 経験者の再教育

教育訓練受講済みの従事者の内、主管部門長またはESH管理室長が再教育を必要と判断した場合。

1.2.2 教育訓練の内容

教育訓練の内容は、職場で使用あるいは貯蔵される化学物質について次の事項とする。カリキュラムに追加、変更、廃止が発生した場合はESH管理室長が主管部門長と協力して変更修正する。

(1) MSDSの職場内常備場所とその見方

(2) 化学物質名と取り扱い方法

(3) 物理的・化学的性状、健康に対する潜在危険、保護具の着用

(4) 放出量を減少させる手法

(5) 緊急事態発生時（漏洩、火災など）

1.3 容器のラベル貼り付け又は表示

主管部門の実務従事者は、使用するすべての容器に、充填されている化学物質名のラベル貼り付け又は表示をする。

1.4 MSDSの管理

(1) 主管部門は、購買部長と協力しMSDSを入手する。ESH管理室長は、化学物質の副資材登録が

完了した場合、MSDS を社外文書として登録・保管し、取扱い場所に配布する。

- (2) 主管部門長は、配布された MSDS を、化学物質取扱い場所に近接した閲覧しやすい場所に備え付け維持する。

(続く)